

令和４年度 第１回前橋市児童文化センター運営委員会

日時：令和４年６月２９日（水）

午後３時開会

会場：児童文化センター１階ホール

進行：青少年課長

次 第

１ 開 会

２ あいさつ 教育長 吉川 真由美

３ 自己紹介

４ 会長・副会長選出

５ 議 事

（１）報告及び協議

- ①令和３年度事業報告について
- ②令和４年度事業概要について
- ③令和４年度の運営について

（２）その他（意見交換）

６ 閉 会 （午後４時３０分予定）

令和4年度 児童文化センター運営委員会委員名簿

(任期 令和4年6月1日～令和6年5月31日)

(敬称略)

関係機関・推薦団体名	所属（役職名）	委員名	備考
学識経験者（教育関係）	群馬大学名誉教授	西 蘭 大実	継続
前橋市中学校長会	第五中学校 校長	荒井 学	新任
前橋市小学校長会	荒子小学校 校長	手島 龍一	継続
前橋市子ども会育成団体連絡協議会	会長	渡邊 忠司	新任
前橋市青少年健全育成会連絡協議会	みずき中地区会長	藤森 赳夫	継続
前橋市PTA連合会	会長幹事（大利根小PTA会長）	古田 陽	新任
前橋市PTA連合会	母親代表幹事（中川小PTA副会長）	大澤 恵	新任
前橋市立幼稚園代表	おおご幼稚園 園長	三好 玲子	新任
学識経験者（教育関係）	共愛学園前橋国際大学短期大学部(准教授)	天宮 陽子	継続
学識経験者（科学関係）	ぐんま天文台 職員（観測普及研究員）	田口 光	新規
日本宇宙少年団 前橋分団	指導員	小暮 伸太郎	新規
児童文化センターボランティアの会	役員	岡田 雅子	新規
講師代表（科学教育関係）	科学教室講師（桃井小教諭）	小林 延行	継続
講師代表（文化芸術関係）	音楽教室講師（桂萱中教諭）	春山 和也	新規

令和4年度

事業概要

－ 「学び」と「遊び」の活動交流拠点 －



前橋市児童文化センター

－ 目次 －

児童文化センターの特徴

1 施設の特徴	1 ページ
2 事業の特徴	2 ページ
3 人材の特徴	
4 様々な機関や組織との連携の推進	

施設の概要

I 前橋市児童文化センター	3 ページ
II 前橋こども公園	

令和4年度 事業の概要

I 運営目標	4 ページ
II 本年度の重点施策	
1 交通・天文・環境教室の充実	
2 自然体験活動の充実	5 ページ
3 科学・文化芸術教育活動の充実	
4 遊びの充実と多世代交流の推進	6 ページ
III 開館時間・料金等	8 ページ
IV 事業体系	9 ページ
V 各事業実施報告（令和3年度）	
1 交通・天文・環境教室の充実	10 ページ
2 自然体験活動の充実	12 ページ
3 科学・文化芸術活動の充実	
4 遊びの充実と多世代交流の推進	15 ページ
5 その他	16 ページ

児童文化センターの特徴

- 子供にとって、総合的な科学・文化芸術活動，様々な体験ができるところ。遊びながら学べるところ。
- 市民にとって、安心して小さな子供を連れて遊びにいけるところ。また，ボランティア活動を通して，多様な世代の交流ができるところ。
- 学校・園にとって，交通・天文・環境を学ぶところ。より質の高い学びの体験ができるところ。

1 施設の特徴

○前橋こども公園と一体化した教育施設

屋外の交通学習ゾーン，芝生広場，冒険遊びゾーン，さらに館内すべてのところで，子供たちの夢を育て可能性を広げる総合的な文化施設となっている。

○交通学習にふさわしい施設

交通学習ゾーンでは，体験的に交通ルールを学べる環境を整えている。

○豊かな発想により使い方が広がる施設

ホール，フリースペース，ワークルームなど，開閉・可動壁で多様な使用ができる施設。

○「学び」も「遊び」も人から人へ

科学等に関する展示は少なく，「学びも遊びも人から人へ」のコンセプトをもち，子供の活動自体が，子供自身，指導する者，そして活動を目にする者にとって「文化の形」を示している。そのための体験型の企画やマンパワーが活かせる仕組みを随所に持っている。

○建物自体が教材で，仕組みが見える造り（エレベーター，のぞき窓など）

○教育的価値を追求するプラネタリウムがある施設

限りなく本物に近い星空を再現できる光学式とデジタル式を融合させたハイブリッド型プラネタリウム。全国的にも数少ない意図的・計画的な自主番組制作，職員の生解説，学校・園と連携した学習投影など，プラネタリウムから実際の星空に関心が広がる工夫が進められている。

○自然と環境，自然エネルギー等について学べる施設

- ・水力発電・風力発電・太陽光発電装置，太陽光採光システム，屋上緑化・壁面緑化，雨水利用システムなどの設備を直接見て環境について考えることができる。
- ・公園内の様々な種類の樹木，植栽，メダカや多種の水生生物のいるビオトープや昔ながらの田んぼの再現など，地域の自然環境を生かした自然や環境に関する学習ができる。

○240 台の駐車場完備

- ・混雑時には第二駐車場も開放している。



2 事業の特徴

- 多様な文化活動（科学，文化芸術，交通安全，環境教育，自然体験等）を実施し，子供たちの科学・文化活動の中核となる事業を行う。
- 体験的な活動を重視して，「学び」と「遊び」を一体化した事業を行う。
- 様々な人（多世代，異年齢，多地域の人など）との交流が図れる事業を行う。
- 学校・園と連携（教育課程にかかわる事業，学校外活動の推進）した事業を行う。
- 社会教育施設として家庭教育，子育て支援も推進する。

3 人材の特徴

- 職員は，教員や教員免許保有者が多く，理科，技術・家庭，音楽などの各教科，司書，幼稚園，養護など多岐にわたり，交通指導，天文指導，環境教育などの実践者がおり，充実した指導を行っている。
- 事務職員は，計画的な施設管理のほか，適正な予算編成や執行，契約事務等に対応している。
- 児童文化センター所有の2台のバスと運転技士により，安全で信頼できるバス運行が可能である。
- サポートスタッフとして，学生が子供たちの活動を支援している。
- 市内の学校や大学の先生方，有識者を講師として依頼し，職員とともに子供たちへの指導を行ったり，プラネタリウム番組の制作をしたりしている。
- 一般ボランティア，青少年ボランティア，野メダカを育てる会など，多くのボランティアが児童文化センター職員とともに子供たちのために活動している。

4 様々な機関や組織との連携の推進

○行政内（教育委員会事務局以外）

交通政策課，文化国際課，防災危機管理課，環境森林課，公園緑地課，公園管理事務所，秘書広報課，渋川森林事務所，県森林保全課，県環境政策課，県eスポーツ・新コンテンツ創出課 等

○施設

前橋文学館，市立図書館，赤城少年自然の家，国立赤城青少年交流の家，公民館，前橋東警察署，前橋中央消防署，アーツ前橋，総社歴史資料館，群馬県立自然史博物館，ぐんま昆虫の森，ぐんま天文台，tsukurun 等

○大学等

群馬大学，前橋工科大学，共愛学園前橋国際大学，群馬社会福祉専門学校，育英大学，高崎健康福祉大学，東京福祉大学，群馬医療福祉大学，市立前橋高校，勢多農林高校，群馬工業高等専門学校 等

○団体等

前橋市文化協会，前橋市民音楽連盟，群馬県少年少女合唱団連盟，前橋東ロータリークラブ，商工会議所，青年会議所，ものづくり指南塾，発明協会，前橋テクノフォーラム，県こどもエコクラブ，ぐんま緑のインタープリター協会，ぐんま山森自然楽校，赤城自然塾，県プラネタリウム連絡協議会，群馬星の会，ボーイスカウト，日本宇宙少年団前橋分団，体験の風をおこそう実行委員会 等

（順不同）

施設の概要

I 前橋市児童文化センター

1 名称及び所在地

前橋市児童文化センター TEL (027) 224-2548

FAX (027) 243-8361

前橋市西片貝町五丁目8番地

2 目的

前橋の子供たちの科学及び文化芸術に対する理解と関心を高め、心身の健全な育成を図る。

○コンセプト

まちなかの身近な「学び」と「遊び」の活動交流拠点として、科学・文化、環境、自然体験活動等を通し、子供たちの夢を育て可能性を広げる総合文化施設とする。

3 開館

平成24年1月（旧館開館 昭和44年10月）

4 施設の規模及び構造

○敷地面積 38,500 m²（前橋こども公園を含む）

○構造 鉄筋コンクリート地上2階建て

○規模 建築面積 1,635.28 m²

延床面積 2,783.51 m²

○館内施設

フロア	主な施設・部屋名
1 階	エントランスホール、プラネタリウム、ほしのみち、みんなのホール わくわくひろば、わくわくアクア、ワークルーム1、キッズショップ
2 階	どれみふぁルーム、はっけんラボ、つくる一む、スペースeco、ワークルーム2
屋上	おひさま広場、ほしの広場

○事業費 905,094,750 円（本体及び外構等工事費）

II 前橋こども公園

1 名称及び所在地

前橋こども公園 前橋市西片貝町五丁目7番地・8番地

2 公園内の施設

管理ヤード、ゴーカートゾーン、交通学習ゾーン、水辺観察ゾーン、観察の森ゾーン

芝生広場ゾーン、エントランスゾーン、雑木林と文学のゾーン

駐車場（普通車240台、大型バス3台）

冒険遊びゾーン（平成26・27年度、令和3年度に新たな遊具を製作・設置）

音のステージ（平成28年度）、時の広場「日時計」とメダカロードの設置（令和元年度）

3 ゴーカート

○ガソリンゴーカート（10台）、EVゴーカート（3台）

○1周：約700m

令和4年度 事業の概要

I 運営目標

子供たちの文化活動の中核として、科学的な原理・法則や環境保全について総合的・体験的に学ぶ活動や、文化芸術に触れたり自己表現をしたりする活動、交通安全教育、多様な体験や交流活動の機会の充実等に係る事業などを行い、多様な人とかかわりながら、個性を生かし、夢に向かって主体的・創造的に活動する子供の育成を目指す。

II 本年度の重点施策

1 交通・天文・環境教室の充実

(1) 交通教室の充実

〔目標・ねらい〕

- 全小学校4・6年生及び希望する中学校・特別支援学校を対象に自転車教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。
- 幼稚園・保育所(園)・特別支援学校等を対象に歩行教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。

〔今年度の重点〕

- 小学校の教室では、自転車に不慣れな児童のために、練習の場を設定し、引率者が指導できるように、乗り方の助言や職員の配置の工夫を継続するとともに、指導方法の改善に努める。
- 自転車に乗る経験が少ない児童のために「親子自転車乗り練習会」を数回にわたって開催し、自転車操作の習熟を図る。
- 幼稚園等の教室では、年長児を対象とし、小学校入学後の安全な登下校のために、道路の安全な歩行に重点を置いて実施していく。
- 新型コロナ対策を継続するとともに、新型コロナの状況に応じた各教室の実施に向けて取り組んでいく。

(2) 天文教室の充実

〔目標・ねらい〕

- プラネタリウムの機能を活用した天文教室を実施することにより、子供たちの宇宙や天体への理解を深め、観察への意欲を高める。
- 実際に天体を観察する移動天文教室を実施することにより、子供たち及び保護者の天体に関する興味・関心を高める。

〔今年度の重点〕

- 小学校の教室では、事前打合せ等を活用し、理科の授業の現状把握に努め、学校ごとの実態に応じた内容で展開や理科の授業者の参加を促すことを継続する。さらに、天文教室の充実に向けて、タブレットPCの効果的な活用方法について検討する。
- 幼稚園等の教室では、Webページでの情報提供や事前打合せ等を行い、適切な番組の選択や実態に応じた星空解説に努める。
- 移動天文教室では、実際の天体観察を通して、宇宙や天体への興味・関心の向上を図るとともに、学校における理科学習の振り返りにつなげられるように努める。
- 新型コロナ対策を継続するとともに、新型コロナの状況に応じた各教室の実施に向けて取り組んでいく。

(3) 環境教室の充実

[目標・ねらい]

○児童文化センターの自然や施設、学校の環境を活用した主体的・対話的な環境教室を実施することにより、学校における環境教育の充実を図る。

[今年度の重点]

- 新型コロナの状況によって環境教室が、児童文化センターでの実施や、学校での実施を想定し、柔軟に対応できるようにする。
- ・環境教室の内容を家庭に周知し、家族と一緒に環境を考えられる教材の充実をさらに進める。
- ・新プログラム「自然エネルギーを生かした発電のしくみを調べよう」の内容を指導担当者で話し合い、内容の充実を進める。
- 学校の環境教育充実のため、外部との連携をより強化する。
- ・各学校の環境教育の中に環境教室を位置づけるよう引き続き依頼し、学校のニーズに応じた環境教育の支援を実施する。
- ・学校教育課と連携し、環境教育主任会への情報提供や教育内容に関わる支援に努める。
- ・市環境森林課と連携し、専門的な知識をもった講師として担当職員を招聘し、深い学びを実現していく。

2 自然体験活動の充実

[目標・ねらい]

- 効果的な活動例の提示や相談などを行うことにより、学校等の児童生徒主体の自然体験活動を支援する。
- 人材の紹介や自然体験活動講師の派遣等を行うことにより、学校や林間学校における自然体験活動の推進を図る。
- 教員に対する自然体験活動の研修を実施することにより、自然体験活動の充実を図る。

[今年度の重点]

- 学校等の自然体験活動推進のため、担当職員が事前・事後も含めた体験活動の進め方や有効活用について助言する。また、学校が実際に活動している場所を視察し、講師と連携しながら児童生徒主体の活動のあり方などを話し合ったり、児童生徒との接し方について具体的なアドバイスを行ったりするなど、積極的なコーディネートを進める。
- 指導の展開事例を講師とともに再検討し、より児童生徒が主体的に活動に取り組むことができるよう内容の充実をさらに図る。
- 自然体験活動の講師と連携し、作成した「森のパワーを探してみよう」（赤城少年自然の家・北毛青少年自然の家・榛名高原学校・雨天時）を活用した実践事例を蓄積し、内容の評価と検証を行うとともに、内容の充実をさらに図る。

3 科学・文化芸術教育活動の充実

(1) クラブ活動の充実

[目標・ねらい]

○科学・文化芸術に関する様々なクラブ(環境冒険隊・宇宙・ジュニアオーケストラ・合唱団・演劇・発明)を実施することにより、子供たちの個性や能力を伸ばし、人と関わる力を育てる。

[今年度の重点]

- 新型コロナ対策を継続して実施した上で、学校や世代間交流の場としてのクラブ活動が、子どもたちの豊かな体験の場となり、自らの成長を実感できる主体的な活動の場となるよう、活動内容の精選や改善を図る。

○クラブ活動が講師として指導に当たる教員の資質向上の場として期待していることから、学校教育課や総合教育プラザとも連携し、新しい講師を育成する努力を今後も続ける。また、一般市民の講師についても同様の課題があるため、人材の開拓に努める。

○新型コロナの中でも充実した活動を継続するため、活動場所の確保など担当者同士の連携を密にする。

(2) 多様な科学・文化芸術に関する教室の充実

[目標・ねらい]

○科学・文化芸術に関する教室(夏季教室、わくわく教室等)を実施することにより、子供たちの興味・関心を広げ、多様な体験活動を推進する。

[今年度の重点]

○市民(団体)等の中には、子どもたちの多様な体験活動の支援を意図し、その実現のための手立てを模索している方々もいる。そのような市民の活動を支援するためにも、新型コロナの状況等を踏まえて連携・協働・情報交流を進めていきたい。令和4年度は環境教育やSDGsを視野に入れた新しい教室の実施を検討する。

○令和4年度も少人数・短時間で効果的な教室を行えるよう、新型コロナ対策と並行して、活動内容の精選や改善、参加者の活動への支援の在り方を検討する。

○教室の実施状況や内容を参加者に伝えるためのWebページの充実や閲覧の働きかけを今後も継続する。

(3) プラネタリウムの番組の制作と投影

[目標・ねらい]

○毎月更新される自主制作プラネタリウム番組の提供と、対話型の星空解説を取り入れた質の高いプラネタリウム投影を実施することにより、観覧者の天文への興味・関心を高める。

○市民天文教室やプラネタリウムコンサートなど、投影の内容や方法を工夫することにより、多くの市民が宇宙や天文現象に触れる機会を提供する。

[今年度の重点]

○安定したプラネタリウム投影のため、新型コロナ対策を徹底する。

○天文現象等の情報交換や、時季に応じた星座解説などの職員研修を今後も計画的に設定することにより、投影を担当する職員の資質能力の向上を図る。

○プロジェクターの更新に向けて、広告収入やふるさと納税等特定財源獲得の方法も含め、関係部署と協議を深めていく。また、休祝日の投影回数の追加やプラネタリウムを利用した新企画等を検討し、歳入増を目指す。

○新型コロナ対策として市民天文教室におけるプラネタリウムの活用や、プラネタリウムコンサートの実施方法について引き続き検討していく。また、天文現象に触れる機会となる新企画も考えていく。

4 遊びの充実と多世代交流の推進

(1) 各種イベントや体験的な事業の推進

[目標・ねらい]

○「わくわくチャレンジコーナー」「冒険遊び場」などを実施することにより、子供たちの体験活動を充実させる。

[今年度の重点]

○各種イベントや体験的な事業等において、子どもたちの主体性を育むことができる活動となるよう、企画の見直し、指導内容の検討・確認を図り、講師との事前打合せを十分に実施する。

○サポートスタッフの活動意欲を活かし、「わくわくチャレンジコーナー」での体験活動を充実させるため、講師研修を継続して実施する

(2) 交通安全に関わる体験の充実・こども公園の活用

[目標・ねらい]

- ゴーカートや足踏みカートを運行することにより、子供たちが遊びを通して交通ルールやマナーについて学ぶ機会を提供する。
- 芝生広場、交通学習ゾーン、大型遊具、冒険遊びゾーンなど、「学び」と「遊び」の場を提供し、子供たちの健全育成を図る。

[今年度の重点]

- ゴーカートや足踏みカートなどで楽しく遊びながら交通ルールやマナーなどについて学べるよう、公園指導員の配置により、引き続き指導の充実を図る。
- ゴーカート運行における新型コロナ対策の取り組みを継続して行う。
- 冒険遊びゾーン内のフィールドアスレチックについて、職員による日常点検や専門業者による点検・補修を行い、学びと遊びの場として安全な運営を継続していく。
- 安全かつ快適な環境を維持できるよう、公園管理事務所など関係機関と連携し管理に努める。

(3) 市民力の活用と多世代の交流

[目標・ねらい]

- 様々なイベントや「冒険遊び場」等で、ボランティア・青少年ボランティアの活動の場を提供することにより、市民力の活用を推進し青少年の育成を図る。
- ボランティア・青少年ボランティアが交流できる組織を充実させることにより、多世代交流を推進する。

[今年度の重点]

- ボランティアの会と協力し、情報を共有したり連携を図ったりすることを通して、ボランティア活動の活性化や自主的な企画・運営の支援を行う。
- ボランティアの増員をめざし、学生ボランティアを経験した学生や視察等に訪れた学生等に積極的に声かけを行う。

Ⅲ 開館時間・料金等

1 開館時間

午前9時～午後4時30分（7月21日～8月26日は午後5時まで）

2 休館日

毎週月曜日・毎月第2木曜日（祝日の場合は翌日）

12月29日～1月3日

3 入館料：無料

(1) プラネタリウム観覧料

一般投影：小中学生 100円

高校生以上 310円

未就学児 無料

団体投影：20人以上の団体利用者

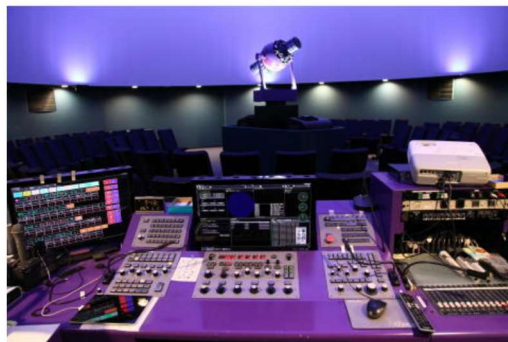
小中学生 80円

高校生以上 250円

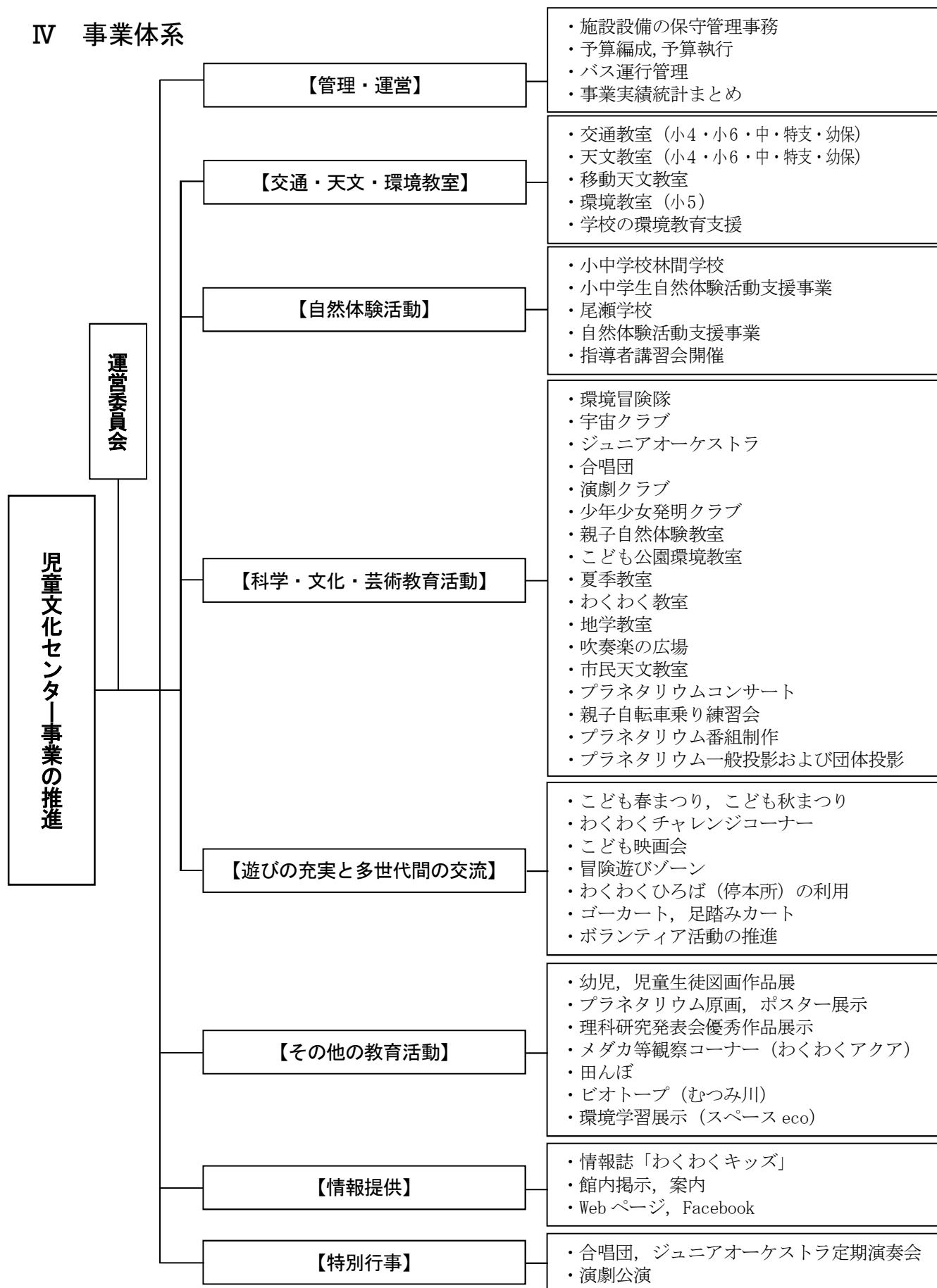
＊障害者手帳等持参（付添人1人含む） 無料

(2) ゴーカート料金

一周 100円



IV 事業体系



※事務局：前橋少年少女発明クラブ、野メダカを育てる会

V 各事業実施報告（令和3年度）

1 交通・天文・環境教室の充実

児童文化センターの施設等を活用した体験的・実践的な交通・天文・環境教室を実施することにより、学校教育の充実を図る。

(1) 交通教室の充実

ア 目的

《自転車教室》

全小学校4・6年生及び希望する中学校・特別支援学校を対象に自転車教室を実施することにより、自転車操作の習熟、安全確認による危険回避能力の育成、自他の危険を予測する能力や態度を育てる。

《歩行教室》

幼児を対象に歩行教室を実施することにより、安全に歩行するための交通ルールを学び、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。

イ 内容

《基本的内容》

- i) 自転車の安全な乗り方指導（小学校4・6年、希望する中学校、特支学校等）
- ii) 正しい歩行の仕方指導（幼稚園、保育所、認定こども園等の年長児）

《具体的な内容》

i 自転車教室（4年）	i 自転車教室（6年）	ii 歩行教室（幼保）
・安全に乗るための服装 ・ヘルメットの正しい着用 ・こぎ出しの姿勢（右足ペダル） ・右、左、右、後ろの安全確認 ・ブレーキのかけ方 ・一時停止の厳守 ・横断歩道や踏切の渡り方 ・交差点の渡り方 ・安定したこぎ出し・走行 ・標識や道路標示の理解 ・自転車専用道での走行	・4年生の内容のふり返し ・交通状況に応じた適切な状況判断 ・駐車車両のよけ方 ・走行中の安全確認 ・標識や道路標示に従った適切な自転車操作	・道路の横断の仕方 ・信号の見方、交差点の渡り方 ・横断歩道のない道路の横切り方 ・歩道橋の渡り方 ・横断してはいけない所

ウ 実施状況

- ・小学校 : のべ74校147回（4年生10校は各学校で実施）、4,247人
- ・中学校・特別支援学校 : 1校2回、12人
- ・幼稚園・保育所 : 12園13回、337人

(2) 天文教室の充実

①学習投影

ア 目的

《小・中学校天文教室》

全小学校4・6年生及び希望する中学校・特別支援学校を対象に天文教室を実施することにより、プラネタリウム学習投影を通して、月などの天体を観察する技能の習熟を図り、天体観測や学校での学習に対する意欲・関心を高める。

《幼保天文教室》

幼児を対象に天文教室を実施することにより、星や星座に対する興味・関心を高める。

イ 内容

《基本的内容》

- i) 学習指導要領に基づいた学習投影（小学校4・6年、希望する中学校、特支学校等）

ii) 季節の星空に沿った学習投影（幼稚園、保育所、認定こども園等の年長児）
《具体的な内容》

i 天文教室（4年）	i 天文教室（6年）	ii 天文教室（幼保）
・太陽の動き ・星座早見の使い方 ・月の観察方法 ・観察記録用紙の使い方 ・今日の星座 ・夏の星座 ・星の明るさや色 ・星の動き ・月の日周運動	・太陽の動き ・月の満ち欠け ・月の位置や形 ・月と太陽との位置関係 ・月や太陽の表面の様子 ・今日の星座 ・冬の星座 ・星の動き	・投影の説明 ・太陽の動き ・今夜の星空解説 ・星座のお話（番組） ・夜明けまでの星の動き

ウ 実施状況

- ・小学校 : のべ 73 校 144 回（4 年生 10 校は各学校にて実施）、4, 145 人
- ・中学校・特別支援学校：実施なし
- ・幼稚園、保育所 : 15 園 17 回、428 人

②移動天文教室

ア 目的

星空観察や、天体望遠鏡での月や惑星、星雲・星団などの観察を通して、天文に対する興味・関心を高める。

イ 内容

小学校 4 年生以上の理科の学習に沿ったもの

月や星座・星の並びの日周運動、天体望遠鏡による天体観察

- ・季節の主な星や星座に関する説明、その見つけ方
- ・月や、理科の授業で学習する季節の星座の観察
- ・天体望遠鏡を使った、月や惑星、星雲・星団などの観察

※天候が曇天・雨天時には中止とし、後日希望する学校に室内レクチャーを実施。

ウ 実施状況

- ・小学校：7 校予定 4 校実施、268 人

(3) 環境教室の充実

ア 目的

小学校 5 年生を対象に児童文化センターの自然や施設を活用した体験的な環境教室を実施することにより、学校における環境教育の充実を図る。

イ 内容

児童文化センターの自然や施設・設備を活用し、環境について調べるための基礎的な手法を学んだり、身の回りの環境について考えたりすることを通して、環境に対する問題意識を高め、学校における環境学習の充実を図っている。

ウ 実施状況 小学校：46 校 96 回 2,620 人

- ・実施プログラム
 - 「空気のごれを調べよう①（窒素酸化物調査）」実施 32 校 67 回（各学校で実施）
 - 「空気のごれを調べよう②（粒子状物質調査）」実施 0 校
 - 「水のごれを調べよう」実施 2 校 2 回
 - 「守ろう！前橋のメダカ」実施 12 校 27 回

(4) 学校への環境教育支援等

ア 目的

各学校の実態に応じた効果的な活動例や人材などの紹介、教材や器具の提供などの支援を行い学校の環境教育の充実を図る。

イ 実施状況

- ・令和3年度は実施なし

2 自然体験活動の充実

(1) 学校対象

ア 目的

学校における自然体験活動や林間学校における体験活動を充実させることにより、生命・自然を尊重する精神と環境の保全に寄与する態度を育てる。

イ 実施状況

○小中学校林間学校

小学校第5学年および中学校第1学年 実施時期：7月～10月

※令和3年度は、前橋市内小中学校の林間学校は日帰りを実施

○小中学生自然体験活動支援事業

小中学校が行う自然体験活動に対する講師紹介と講師派遣および講師謝礼支払

令和元年度実績：小学校39校、中学校17校

令和2年度実績：小学校30校、中学校2校（小中学校とも一日自然体験活動として）

令和3年度実績：小学校41校、中学校8校（小中学校とも一日自然体験活動として）

○一日自然体験活動の使用施設

小学校：赤城少年自然の家1校 国立赤城青少年交流の家35校 その他の施設5校

中学校：赤城少年自然の家8校

○尾瀬学校（群馬県主催事業）

※令和3年度については、移動尾瀬教室を提案。実施はなし。

○指導者講習会の開催（赤城少年自然の家とその周辺で計画）

- ・林間学校指導者講習会（主に中学校対象） 4月27日

自然体験活動体験、カッター実習、施設見学、自然体験活動補助事業の説明等

- ・小学校自然体験活動指導者講習会 8月20日（※新型コロナのため中止）

ネイチャーゲーム実習、自然体験活動体験、学習指導要領への位置づけと意義、実施計画案の作成実習、自然体験活動補助事業の説明等

(2) 一般市民対象

ア 目的

一般市民を対象とした自然体験活動を充実させることにより、生命・自然を尊重する精神と環境の保全に寄与する態度を育てる。

イ 実施状況

○自然体験活動推進事業（委託）

赤城山の自然環境を活用した体験活動の推進

- ・自然観察会、ネイチャークラフト等（ぐんま緑のインタープリター協会）2回実施

※3回を予定していたが、第3回（10月2日）は新型コロナのため中止

- ・赤城山親子トレッキング等（ぐんま山森自然楽校）4回実施

3 科学・文化芸術活動の充実

(1) クラブ活動の充実

ア 目的

科学・文化芸術に関する様々なクラブを実施することにより、個性や能力を伸ばし、人とのかかわる力を育てる。

イ 活動内容

クラブ名	クラブ員数	実施回数・日	主な内容
環境冒険隊	小4～小6 25人	月2～3回 土曜日 11回実施 (20回予定)	・自然の中で遊び、生き物調べ、自然観察、環境調査 専門家を講師に招いての体験活動 ・県エコクラブ学習会への参加予定(1/15 児童文化センター)
宇宙クラブ	小4～中3 18人	主に土曜日 5回実施 (10回予定)	・天体望遠鏡を用いた観測会の実施及び星や星座の学習 ・プラネタリウムなどの施設設備を利用した天文学の基礎的な学習 ・市民天文教室との同時開催及び所外施設の利用(富士見公民館)
ジュニア オーケストラ	小1～高3 67人	隔週日曜日 14回実施 (26回予定)	・ヴァイオリン楽器演奏の基礎、基本 ・5グループに分かれての練習、合奏 ※2月の定期演奏会は新型コロナのため中止
合唱団	小1～中2 56人	毎週日曜日 17回実施 (43回予定)	・同声2部合唱、3部合唱の練習 ・感染状況等に応じて、2グループに分かれて隔週の活動 ※2月の定期演奏会は新型コロナのため中止
演劇クラブ	小1～中3 11人	月2～4回 10回実施 (35回予定)	・発声練習、ダンス練習等 ・児童文化センターでの公演(10月、3月)※新型コロナのため中止 ・プラネタリウム番組制作に声優として参加
少年少女 発明クラブ	小4～中2 前期23人 後期23人	隔週日曜日 12回実施 (25回予定)	・発明の基礎学習 ・発明考案作品製作 ・前橋市発明考案展・群馬県創意工夫展等への出品 ※公開発明教室の実施(年4回)

(2) 多様な科学・文化芸術に関する教室の充実

ア 目的

科学・文化芸術に関する教室を実施することにより、子供たちの興味・関心を広げ、多様な体験活動を推進する。

イ 活動内容

教室名	対象・人数	実施回数・日	主な内容
親子自然 体験教室	小1～小3 親子	1回実施 (3回予定)	・コロナ禍における配慮により、沢入での川遊びから覚満淵周辺の 散策とカッター実習に内容を変更
こども公園 環境教室	一般市民	日曜日 3回実施 (5回予定)	・こども公園の自然(桜、野メダカ、水中微生物、植物、土等)を 活用した環境教室 ※新型コロナのため、野メダカ(5月)と植物(9月)は中止
夏季教室	主に小学生	夏季休業中 3回実施 (10回予定)	・科学・造形・音楽・歴史教室等 (ホバークラフト、動物バスケット、ハンドエンボスを実施)
わくわく教室	主に小学生	9回実施 (16回予定)	・理科・造形・音楽・科学・工作を体験する教室等 (宇宙ワークショップ2回、親子木工教室、まが玉づくり、プログ ラミング低中高、はりがね星空飾りを実施)
地学教室	小4～中3	実施10/30 (1回予定)	・地層や断層の観察と化石採集 ・群馬県自然史博物館見学
市民天文教室	一般市民	1回実施 (3回予定)	8月12日「ペルセウス座流星群と夏の星座、惑星、月を見よう」 ※新型コロナのため中止 11月19日「部分月食を望遠鏡で見よう！」 2月12日「月の観察会と冬の星座観察」※新型コロナのため中止
プラネタリ ウムコンサート	一般市民	実施なし (3回予定)	・プラネタリウムでの星に関係した音楽の生演奏 (弦楽合奏、オカリナ等) ※新型コロナのため中止
親子自転車 乗り練習会	小3以上 親子	実施なし (3回予定)	・自転車に乗ることが不安な児童が練習する機会 ※「乗れない」から「乗れる」へ

※令和3年度については新型コロナにより実施時期や回数に変更有り

(3) プラネタリウムの番組制作

ア 目的

季節や天文現象等に合ったプラネタリウムの番組を自主制作することにより、天文への興味・関心を高める。

イ 内容

制作期日 5月～3月(新作10本)

制作内容 星座のお話(星座にまつわる物語) 新作5本

天文学シリーズ(天文学に関わる基礎的な内容や話題) 新作5本

制作者 原画作成・音楽作成・台詞録音は市民、演劇クラブ団員等の協力

シナリオ作成、音声・画像編集、投影プログラム作成はセンター職員

番組編集(プログラミング)は業務委託

(4) プラネタリウムの投影とその工夫

ア 目的

内容や方法を工夫したプラネタリウム投影を行うことにより、多くの市民が宇宙や天文現象に触れる機会を提供する。

イ 実施内容

○一般投影

平日 15:30～ 火・木「星座のお話」 水・金「天文学シリーズ」

土日・祝日 10:30～, 13:30～「星座のお話」

11:30～, 15:30～「天文学シリーズ」

・投影回数 340回, 観覧者数 7,180人

・警戒度に応じて、投影休止期間あり。

・令和3年度も、定員を30～35名程度に限定して実施。入場前の検温、健康観察、入場時のアルコール消毒、マスク着用などにより、感染予防を徹底した。

○団体投影 9:30～ 14:30～ 人数を35名までとして実施

・投影回数 6回, 観覧者数 234人

○プラネタリウム・チャレンジ7 7月～2月

・プラネタリウム観覧ごとに用紙にスタンプを押印し、スタンプ数に応じて副賞

・期間が短く定員が少ないため、例年より押印の回数を減らして実施(10回→7回)

○群馬県プラネタリウム連絡協議会スタンプラリー 7月～2月

・県内のプラネタリウム施設9館、天文台1館の計10か所を巡り、スタンプを収集

・スタンプ数に応じて副賞

※例年行っていた以下の内容は、全て新型コロナのため中止とした。

○特別投影

プラネタリウムコンサート(中止), プラネタリウムデビュー(中止)

「星空とともに」(3月27・28日実施) 2回 60人

○プラネタリウムフォトジェニック(中止)

・ライトアップしたプラネタリウム投影機をバックにしたり、解説用の投影パネル席に座ったりするなどして希望者が写真撮影

ウ その他

令和3年度、プラネタリウムに広告設置の業者選定のためのプロポーザルを実施し、10月からプラネタリウム広告を設置している。

4 遊びの充実と多世代交流の推進

(1) 各種イベントや体験的な事業の推進

ア 目的

「わくわくチャレンジコーナー」「冒険遊びゾーン」「こども映画会」などを実施することにより、子供たちの体験活動を充実させる。

イ 活動内容

活動名	参加者数	実施日	主な内容
わくわくチャレンジコーナー	57 回 2,321 人	土日祝日 9:30～11:30 13:00～15:20	・サポートスタッフの発案による幼児から楽しむことができる工作 ・サポスタ研修会の継続実施により、学生同士が高め合う研修となってきた。
冒険遊びゾーン	中止	土日祝日 夏季休業中	・プレイリーダーによる指導は新型コロナのため中止。木製遊具の利用は開放
こども映画会	24 回 1,373 人	毎週土曜日 14:30～15:00	・子供向けの DVD やビデオを投影した。毎週土曜日のイベントとして定着してきている。
停本所	205 日 27,062 人	毎日	・「わくわくひろば」での読書推進や本の貸し出しの他、児童文化センター事業の展示や紹介など、読書指導も行った ・新型コロナのため、読み聞かせは中止
前橋市児童生徒図画作品展	99 校 1,303 点	6～2 月	・ほしのみち「ぐるぐる美術館」に市内幼保小中特別支援学校等の幼児児童生徒の図画作品を展示 ※新型コロナのため延期による同時展示や中止を行った
理科研究発表会優秀作品展	中止	11 月～2 月	・市内小中特別支援学校等の理科研究発表会優秀作品展中止に伴う措置
こども春まつり	中止	5 / 5	・「こどもの日を楽しもう」として計画 ※新型コロナのため中止
こども秋まつり	3,462 人	11 / 3	・様々な感染症対策を施した上で「文化の日を楽しもう」として実施

(2) 交通安全に関わる体験の充実・こども公園の活用

ア 目的

- 足踏みカートやゴーカートを運行することにより、子供たちが交通ルールやマナーについて遊びを通して学ぶ機会を提供する。
- 芝生広場、交通学習ゾーン、大型遊具、冒険遊びゾーンなどを活用し、「学びと遊びの交流拠点」として子供たちの多様な活動を保証するとともに、大人も含めた交流と活動の場としての機能を生かした運営を進める。

イ 活動内容

種別	利用者数	実施日	主な内容等
ゴーカート	85,644 人	休日 9:00～16:30 平日 13:00～16:00 (12・1 月は ～15:30) 新型コロナ感 染防止のため 5/8～ 6/20, 8/7～ 10/7 の間休 止	・ガソリンゴーカート 5 台、EV ゴーカート 2 台で運行した ・運行業務は業者に委託している ・新型コロナ拡大防止措置として、運行台数の制限、乗車券販売の適宜見合わせ、車両の消毒などを講じるとともに、社会的距離の確保や手洗いの励行について啓発を実施した
足踏みカート	41,239 人	休日 9:00～16:00 平日	・対象は小学校 2 年生以下で、小児は保護者がよく付き添っていた ・ゴーカート棟前の足踏みカート置き場に並び、1 周走って交代する形式で運行した

		自転車教室のない日・時間	・こども公園指導員の指導と放送の効果で、マナーを守って利用する親子が多かった
--	--	--------------	--

ウ その他

令和元年度、ゴーカートコースに広告設置の業者選定のためのプロポーザルを実施し、令和2年度からゴーカート広告を設置している。

(3) 市民力の活用と多世代の交流

ア 目的

- 様々なイベントや冒険遊びゾーンにおける活動等で、ボランティア・青少年ボランティアの活動の場を提供することにより、市民力の活用を推進し、青少年の育成を図る。
- ボランティア・青少年ボランティアが交流できる組織を充実させることにより、他世代交流を推進する。

イ 活動内容

- ボランティア活動の推進（現在登録者数 68 名）
 - ・ボランティア研修会の開催（年1回）※新型コロナのため中止
 - ・「Go to チャレンジ！児童文化センター」企画，準備（1月8日実施）
- 青少年サポート事業
 - ・中高大学生のボランティア活動のサポート
群馬大学13名，高崎健康福祉大学2名，育英大学1名，高校生2名
※新型コロナによる閉館中は中止
 - ・学生の企画によるイベントの場の提供
群馬大学共同教育学部（わくわく教室 プログラミング）
10月30日（高学年，中学年），11月27日（低学年） 大学生17名
共愛学園前橋国際大学（自然体験活動応援隊）
8月8日，8月22日，8月29日 ※新型コロナのため中止
 - ・群馬大学社会教育関係研修
8月25日生涯学習概論 ※新型コロナのため中止
 - ・中学校 1校 職場体験活動支援（9月）※新型コロナのため中止

5 その他

○駐車場問題

- ・混雑時には施設所管課の協力を得て，旧二中跡地を臨時駐車場として活用している
- ・上毛電鉄やマイバスを Web ページ等で紹介するとともに，上電城東駅東口の開通により利用しやすくなったことを広め利用促進をすすめていく

○危機管理マニュアルの活用

- ・事故や怪我などの発生時に役立つよう作成した危機管理マニュアルをもとに，館内打ち合わせにおいて全職員で確認した
- ・心肺蘇生法，AED，熱中症応急処置の訓練（6月10日）
- ・災害発生時の避難訓練（11月11日火災発生を想定した避難経路の確認）

○けがや病気等への対応

- ・養護教諭の資格を有する窓口対応職員の配置により 66 人のけが等に対応した。病院紹介の必要な事例が 7 人，救急車の要請事案が 2 件あった。来館者が安心して活動するための支援として有効であった

○視察・講義等対応

- ・群馬大学教職大学院（7月14日 6名）
- ・榛東村教育委員会（9月17日 2名）

○様々な機関・団体等との連携

- ・前橋テクノフォーラム実行委員会、前橋市産業政策課：
まえばしロボコン 2021「ミニロボコン教室」(8/21) ※新型コロナのためオンライン配信
「未来の夢ロボット作り」教室(11/13 12/18 12/25) 実施。各日中学生 6 チーム参加
(合計 18 チーム 36 名)
- ・交通政策課：前橋市交通安全コンクールの作品展示会場として提供
- ・公園管理事務所：公園環境整備、修繕などへの迅速な対応
- ・宇宙教育センター指導者(宇宙少年団)：わくわく教室として「宇宙ワークショップ」開催
- ・赤城少年自然の家、国立赤城青少年交流の家、公民館との連携強化
※特に、一日自然体験活動における自然体験活動の拠点として支援いただいた。また、富士見公民館において宇宙クラブを開催、赤城山ろく里山学校にて大胡公民館・富士見公民館に講師を派遣するなどの連携も行った
- ・太陽誘電：子供たちの体験活動事業「わくわく教室・親子で社会科見学 デジタル技術で未来の自転車を体験しよう」(3月 29 日実施)の企画、準備
- ・前橋東警察署：外国人向け自転車教室実施(12月 8 日)
- ・環境森林課：環境教室(5年生)への情報提供や視察、外部講師として連携
- ・木材組合：ベンチ作成、寄贈(1月)

○「野メダカを育てる会」事務局

- ・前橋メダカの保護・育成と、児童文化センターの環境整備を行うボランティア団体の事務局として、ボランティア活動を推進する(市民に野生メダカを配付)

○その他の教育活動・・・常設展示など

- ①前橋市幼児児童生徒図画作品展
平成 26 年度より国公立幼稚園・保育所及び希望する私立幼稚園・保育園の作品も展示
- ②天文関係展示
- ③理科研究優秀作品展 ※新型コロナのため中止
- ④メダカ等観察コーナー「わくわくアクア」、田んぼ、ビオトープ「むつみ川」
- ⑤環境学習展示「スペース eco」

○情報提供

- ①情報紙の発行 6 回(発行部数：約 21,000 部/回)
 - ・「わくわくキッズ」(4, 6, 8, 10, 12, 2月発行)(6 回)
 - ・小中学生用リーフレット(プラネタリウム観覧招待券 4 枚付)(4 月)
 - ・市内全小中学生に配布。他各学校、幼稚園等に掲示
令和 3 年 10 月～市立小中学校在籍の児童生徒については、タブレット配信に変更
- ②Web ページ等による情報提供
 - ・児童文化センター Web ページを作成し適時多様な情報提供を行う
 - ・必要に応じて、Facebook を活用して情報発信を図る
- ③児童文化センターのパンフレット

○施設関係

- ①抗菌塗布(5月, 11 月)(大栄産業)
- ②冒険あそびゾーン木製遊具修繕(7 月)
- ③ひがしのとりで、クライミングウォール除幕式(10 月 14 日)(東ロータリークラブ)
- ④券売機新 500 円硬貨対応改修(ゴーカート、プラネタリウム)(11 月)
- ⑤水のデッキ・光のデッキ修繕(12 月)
- ⑥プラネタリウム PC 入れ替え(1 月)
- ⑦冒険あそびゾーンロープ修繕(2 月)
- ⑧エンジンゴーカート 2 台更新(3 月)





<https://www.city.maebasgi.gunma.jp/soshiki/kyoiku/jidobunkasenta/index.html>

前橋市児童文化センター事業コンセプト

資料 2



「学び」と「遊び」の活動交流拠点として、
子どもたちの夢を育て可能性を広げる総合文化施設



- ◎ 児童文化センターの目的
前橋の子どもたちの科学及び文化芸術に対する理解と関心を高め、心身の健全な育成を図る。

◎ 事業内容

遊び場としての機能と教育機関としての機能を両立

学び

学校教育(幼児教育)の教育課程の実施

- ・プラネタリウムを使った天文教室(小4、小6及び幼稚園等の幼児向け)
- ・移動天文教室

- ・公園の施設等を使った環境教室(小5)
- ・小中学校林間学校支援
- ・自然体験活動支援

- ・前橋市幼小中特別支援学校等図画作品展
- ・センターの各施設を子供や学生の学習活動の場として活用

- ・交通学習ゾーンを使った自転車教室(小4、小6)
- ・歩行教室(幼・保)

学校外の学習活動の支援

- ・発明クラブ・宇宙クラブ等のクラブ活動
- ・多様なわくわく教室・夏季教室・科学教室等
- ・市民天文教室
- ・プラネタリウムのオリジナル番組投影と、職員の生解説

- ・環境冒険隊・こども公園環境教室等の定期的な環境学習活動
- ・多様な自然体験活動・環境学習の推進

- ・造形教室、絵画教室、和太鼓教室等の教育活動
- ・合唱団、ジュニアオーケストラ、演劇クラブ等のクラブ活動

- ・親子自転車乗り練習会
- ・おもしろ自転車体験

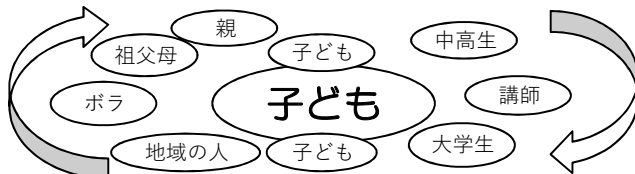
遊び

様々な体験活動の支援

- ・宇宙・天文等に関する掲示、情報紙
- ・プラネタリウムコンサート

- ・風力・水力・太陽光発電等環境に考慮した設備
- ・水田、むつみ川(ピオトープ)、身近な水辺の生き物を知るコーナー
- ・環境展示等の見学
- ・公園散策
- ・わくわくチャレンジコーナーで大学生と工作体験
- ・こども映画会・発表会・コンサート
- ・クライミングウォール
- ・ボランティア主催の教室(紙芝居、マジックショー、読み聞かせ、バルーンアート等)
- ・冒険遊び場で昔遊びや木登りなどの遊び
- ・バスの日のイベント、ロボコンなど関係団体との連携事業等

- ・ゴーカート・足踏みカートで車の交通ルールを体験しながらの遊び
- ・歩道や信号機等を活用した交通ルールの学び
- ・本物の蒸気機関車、電車模型の見学



多世代の交流

市民との連携・子供の活動支援

- ・ボランティアの会
- ・野メダカを育てる会
- ・青少年ボランティアセンター
- ・大学や多様な市民団体との連携

◎ 施設

この施設ならではの特色

児童文化センター

プラネタリウム

- ・最新機器(光学+デジタル式、フルドーム映像)の導入
- ・番組制作ができるメディアルーム
- ・コンサートなどのイベントも実施

わくわくひろば

- ・開放型ブックラウンジ
- ・親子でふれあえる絨毯コーナー

多用途に使えるみんなのホール・ワークルーム

自然エネルギー等の活用

- ・太陽光発電パネル(最大10kw、あずまや、公園照明、信号機)
- ・水力発電(最大200w)
- ・風力発電(最大400w)(EVゴーカートの電力)
- ・太陽光利用照明システム(スペースeco照明)
- ・太陽熱温水装置(デッキでの温水利用)
- ・雨水利用システム(メダカの飼育等での利用)
- ・屋上緑化・壁面緑化

わくわくアクア・めだかロード 水田・むつみ川(ピオトープ)

- ・前橋メダカ等の住処
- ・水辺の生き物の住む環境
- ・水辺の生き物を見られる水槽

はっけんラボ・スペースeco

- ・環境について自主的に学べる環境学習スペース
- ・電子顕微鏡もあり、実験・観察のできる部屋

どれみふぁルーム

- ・歌ったり演奏したりできる部屋

つくるーむ

- ・木工、工作、ロボットなどの学習ができる部屋

広く使える2階の廊下

屋上

冒険遊び場

- ・子どもの冒険心をかき立てる冒険の木
- ・様々な昔遊びを体験したり、子供たちが自然を生かした遊びを考えたり物作りをしたりする交流の場

時の広場・日時計

- ・天文に親しみきっかけとなる日時計と太陽の動きを体験的に理解できる子ども日時計

音のステージ

- ・涼しい木陰でパフォーマンスを楽しめる屋外ステージ

前橋こども公園

ゴーカート・足踏みカート

- ・全長約700mのゴーカートコース
- ・環境に配慮したEVゴーカート
- ・世界初、ゴーカートコースのメロディライン
- ・自分の力でこいで運転する足踏みカート

交通学習のできる環境

- ・本物のような道路や歩道、歩道橋、信号機や踏切、各種道路標識等

公園内の自然・市街地ならではの環境

- ・緑の花をつける品種など10種類のサクラ
- ・様々なドングリなどの実のなる樹
- ・交通量の多い東部バイパスと道路から離れた公園
- ・水の豊かな広瀬川、市街地を流れる佐久間川
- ・星の見える空、空っ風、長い日照

のびのび遊べる芝生広場

約240台収容できる駐車場

※新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業縮小や利用制限を行っている場合があります。

令和3年度事業実績(令和4年3月末)

事業名	回数	参加者
【管理運営事業】		
◎ゴーカート	42,822	85,644
(内数:ガソリン)	40,979	81,958
(内数:EV)	1,843	3,686
(内数:幼・保団体利用)	0	0
◎足踏みカート	41,239	41,239
小計	84,061	126,883
【科学教育】		
◎プラネタリウム投影	509	12,047
(内数:天文学習・小学校)	144	4,145
(内数:天文学習・中学校)	0	0
(内数:天文学習・特別支援学校等)	0	0
(内数:幼稚園・保育所等)	17	428
(内数:一般投影)	340	7,180
(内数:団体投影)	6	234
(内数:特別投影)	2	60
◎科学教室	1	14
◎生物教室	0	0
◎地学・気象教室	0	0
◎市民天文教室	1	50
◎移動天文教室	4	268
◎発明クラブ	12	214
◎宇宙クラブ	5	90
小計	532	12,683
【環境学習】		
◎小学校環境教室	96	2,620
◎環境冒険隊	11	224
◎親子環境教室	1	22
◎環境教室(一般)	3	41
◎学校の環境教室支援事業(※)	0	0
◎教員への研修	0	0
小計	111	2,907
【自然体験活動支援】		
◎ぐんま緑の県民基金自然体験活動支援事業(※)	42	3,141
◎小中学生自然体験活動支援事業(※)	20	1,401
◎尾瀬学校(※)	0	0
◎自然体験活動推進事業(※)	4	80
小計	66	4,622
【文化芸術教育】		
◎合唱団	17	431
◎ジュニアオーケストラ	14	645
◎演劇クラブ	10	66
◎歴史教室	0	0
◎造形教室	1	9
◎絵画教室	1	12
小計	43	1,163

令和3年4月～令和4年3月末まで

前橋市児童文化センター

事業名	回数	参加者
【交通安全教育】		
◎小学校交通安全教室	147	4,247
◎中学校交通安全教室	0	0
◎特別支援学校等交通安全教室	2	12
◎幼稚園・保育所等交通安全学習(歩行)	13	337
◎自転車乗り練習会	0	0
小計	162	4,596
【その他の教育活動】		
◎わくわくチャレンジコーナー	57	2,321
◎ボランティア実施教室等	1	72
◎わくわく教室	9	106
◎子ども映画会	24	1,373
◎わくわくひろば利用者数	205	27,062
◎学校園との連携活動等		
・図画作品展	99	1,303
・理科研究発表会優秀作品展	0	0
◎冒険遊びゾーン	91	30,707
小計	454	62,944
【特別行事】		
・こどもの日を楽しもう	0	0
・文化の日を楽しもう	1	3,462
・合唱Jr.オーケストラ発表	0	0
・演劇公演	0	0
・その他(他団体との連携)	185	11,384
小計	186	14,846
【その他の団体利用数】(回数は団体数)		
・小学校	19	359
・中学校	1	20
・特別支援学校等	0	0
・幼稚園、保育所等	26	813
・その他	26	375
小計	72	1,567
【会議・視察】		
・会議・研修会参加者	88	525
・視察・見学団体数・人数	12	41
小計	100	566
【事業支援】		
・青少年サポートセンター	58	104
・一般ボランティア	28	144
・学生ボランティア	41	86
小計	127	334

集計	来館者合計	85,848	228,489
	(※)の参加者は来館者に含まない		
	開館日数	204	
	図書貸出人数・冊数	429	1,657
事業実績総数		85,914	233,111
団体	・小学校	262	7,226
	・中学校	1	20
	・特別支援学校等	2	12
	・幼稚園、保育所等	39	1,150
	・その他	26	375
	小計	330	8,783